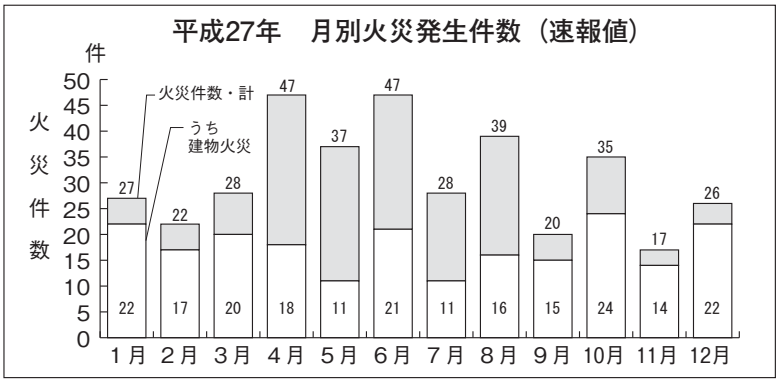
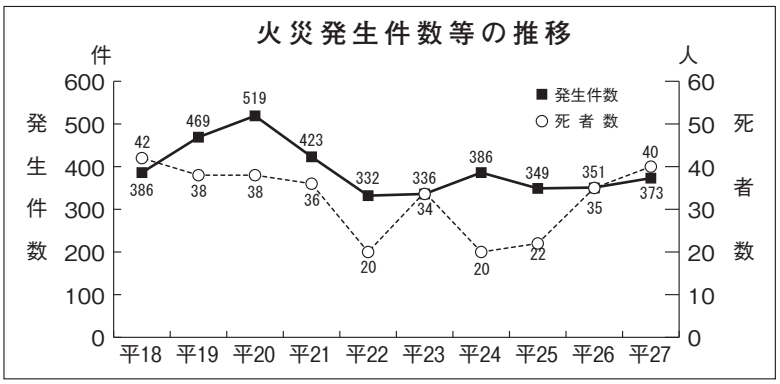
# 平成27年　火災の発生状況（速報値）

## 死者数40名　３年連続前年を上回る

平成二七年中の火災発生件数は三七三件で、前年比二二件増。内訳は、建物二一一件（前年比一二件増）、林野三四件（同一二件減）、車両四五件（同一六件増）、その他八三件（同六件増）となっている。また、平成一八年以降一〇年間の出火件数をみると、平成二〇年に五一九件を記録したものの、概ね減少傾向となっている。

一方、火災による死者数は四〇名で、昨年を五名上回った。




（秋田県総合防災課調べ）

題字
初代会長　松野盛吉
定価　１部　48円
（購読料は年会費に含む）
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目１番２号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長　中田　潤
電話　018－867－7320
FAX　018－863－5910
http://www.shoubou-akita.or.jp
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp
印刷
〒010-0951
秋田市山王７丁目５－29
株式会社　松原印刷社
電話　018－862－8760
http://www.matsubarainsatsu.co.jp

平成二十七年度全国統一防火標語

**無防備な　心に火災が　かくれんぼ**

## 春の火災予防運動

### 四月三日～九日実施

平成二八年春の火災予防運動は、『無防備な　心に火災が　かくれんぼ』の全国統一防火標語を掲げ、四月三日（日）から九日（土）までの一週間、全県一斉に実施されます。

## 住宅防火　いのちを守る七つのポイント

**■三つの習慣**

○寝たばこは、絶対やめる。

○ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。

○ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

**■四つの対策**

○逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。

○寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。

○火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。

○お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

# 第39回 消防職員意見発表秋田県大会

## 秋田県消防長会

第三九回消防職員意見発表秋田県大会(主催：秋田県消防長会)が二月一〇日(水)、秋田市の「ホテルメトロポリタン秋田」において行われました。

この大会は、若手消防職員に職責を再確認させ、消防士の在り方を提案させる場として毎年開催されております。

今大会では、県内一三消防本部から選抜された若手消防職員が、日頃の業務の中から問題点を抽出し、その対応策や今後の展望などの考察を加え、それぞれのテーマに沿って、堂々と力強く訴えました。

審査の結果、最優秀賞一名、優秀賞二名が選ばれました。

**■最優秀賞**

大曲仙北広域消防本部
消防士　石郷岡　美　幸
未来を拓く「わが家の防災マップ」

**■優　秀　賞**

湯沢雄勝広域消防本部
消防士　髙　橋　宏　和
こども防災教育「はひふへほ」

男鹿地区消防本部
消防士長　眞　壁　英　男
1秒でも早く

### 意見発表のテーマと発表者名（発表順）

- ○ 第三の視点　秋田市消防本部　水沢茂樹
- ○ ワンタッチプロトコル　能代山本広域消防本部　菅原智樹
- ○ 夜間訓練の必要性　五城目町消防本部　島﨑拓也
- ○ 一秒でも早く　にかほ市消防本部　佐藤陽介
- ○ 小さな消防士から広がる輪　湖東地区消防本部　伊藤誉紀
- ○ １秒でも早く　男鹿地区消防本部　眞壁英男
- ○ 未来を拓く「わが家の防災マップ」　大曲仙北広域消防本部　石郷岡美幸
- ○ 非常備消防の力は　大館市消防本部　福館将太
- ○ 災害に対して立ち向かう勇気　北秋田市消防本部　畠山光大
- ○ こども防災教育「はひふへほ」　湯沢雄勝広域消防本部　髙橋宏和
- ○ 新たな災害対策　横手市消防本部　髙橋洸佑
- ○ 街を守るこども消防士　由利本荘市消防本部　岩坂諒
- ○ 顔の見えない電話の向こうで　鹿角広域消防本部　佐藤雄太

## 未来を拓く「わが家の防災マップ」

大曲仙北広域消防本部
石郷岡　美　幸

最優秀賞の大曲仙北広域消防本部石郷岡消防士は県代表として、四月二二日(金)、仙台市で開催される東北大会に出場します。

ここで、最優秀賞並びに優秀賞を受賞した意見を紹介します。

「大きくなったら消防士になりたい！」子供たちは手を高く上げ目をきらきら輝かせながら、私を見つめました。ある小学校で行われた防災訓練でのことです。彼らの熱心に取り組む姿に、私はたくましさを感じ、将来の防災活動を担う新しい力を発見したのです。

多発する自然災害、突発的に発生する災害は、多くの生命と財産を奪ってきました。被害を最小限に食い止めること、それは私たちの責務です。この責務を果たすため、私はあの子供たちの姿から一つの答えを見つけました。

現在、各小学校では、自分の住んでいる地域や通学路の危険箇所に関するマップを作成し、自分の命は自

分で守る意識を育んでいるそうです。これは、地域住民も活用できるものだと考えます。

さらに、地域住民にとって最も身近なのは「家族」であり、何よりも尊い存在です。それぞれの家族は、生活、環境が異なっており、家庭の状況に応じた避難活動を行う必要があります。

そこで私は、この「わが家の防災マップ」を提案します。これは小学生一人一人が自宅を中心に描く、世帯別防災マップです。実際に小学生と一緒に作ってみました。特徴は、家の中や周囲に潜む危険箇所を見つけ出し、それぞれの世帯が安全に避難できるようにまとめていることです。チェックするポイントは三つあります。

一つは家の中や周囲に潜む危険です。ストーブの上に干した洗濯物や仏壇のローソクなど、火災が発生するおそれのある場所に赤のシールを貼ります。二つ目は火災や地震が起きた時の避難口です。避難口は、家の中に二つ以上あることが望ましいです。玄関以外の避難口を探し、青のシールを貼ります。三つめは家から近い避難場所です。指定された避難場所が遠い家庭もあります。一次避難所として、自宅付近のお寺の境内に集まることを考え緑のシールを貼りました。

発想力豊かな小学生に危険予測を行ってもらい、内容を家族と共有します。表示箇所を参考に、現状を改善すること、再確認することが、家族全体の防災意識向上につながるのではないでしょうか。出来上がったマップを実際に家族に確認してもらいました。すると、「家の中って、あぶねどごあるんだな。」「避難するどご、みんなで見に行こう。」と家族一体となって、積極的に会話が弾みました。家族から始まる防災が、地域を守る大きな力へと進歩する。この「わが家の防災マップ」を学校の防災教育に取り入れていただくよう、働きかけてはどうでしょうか。この取り組みが未来を拓き、災害に強い街の礎になると、私は確信します。

「大きくなったら消防士になりたい！」まっすぐ私を見つめる子供たちの表情は、勇気と希望に満ちあふれています。子供たちが示した「わが家の防災マップ」が、希望の光となり、身の回りに潜む危険を明確にしてくれました。未来を担う子供たちとともに、災害に強い街づくりを私は目指します。

## こども防災教育「はひふへほ」

湯沢雄勝広域消防本部
髙橋宏和

冬期間は雪害によるニュースが連日のように報道され、平成二五年度までの過去四年間に秋田県での雪害による死傷者は平均二一五人となっています。ハインリッヒの法則によると、年間六千件を超える軽微な事故・災害が発生し、約六万五千件もの「ヒヤリ・ハット」が発生していることになります。これは、まさに非常事態であるといえます。

私は消防士を拝命する以前は、公共用地の取得業務に従事していました。子供達の安全確保を目的に、歩道設置のための用地取得を進めていたときのことです。土地所有者に数回にわたり折衝し、ようやく目処がついたころ、その土地所有者が雪下ろし作業中に梯子から転落し亡くなってしまいました。その後、歩道は完成したものの土地所有者に直接お礼を言えなかったことが残念でなりません。以前は、このように社会資本整備としてハード面から災害防止に取り組んできました。そして、消防士を拝命した現在、今度はソフト面からの災害防止に関わり、その対策が求められていることを強く感じています。そこで、私はこれから地域社会を担っていく子供達に対して、幼少期からの防災教育「はひふへほ」を提案します。この「はひふへほ」は子供達の人気キャラクターであるバイキンまんのセリフです。この親しみのあるセリフを語呂として、避難時の「おかしも」や防犯標語である「いかのおすし」のように幼少期から防災教育を実施することで、雪下ろしによる災害を防止しようというものです。

はい、それでは屋根にたくさん積もった雪下ろしのお話をします。バイキンまんとドキンちゃんは二人で雪下ろしをしようとしていました。そこで、二人は次のことを確認してから雪下ろしを始めます。

バイキンまんの「はひふへほ」
「は」は、はしごは固定しよう。
「ひ」は、必要だよ！命綱！
「ふ」は、二人以上でやろう。
「へ」は、ヘルメットをかぶろう。
「ほ」は、本当に体は大丈夫？

これで、安全な雪下ろしができます。そしてバイキンまんとドキンちゃんの二人による雪下ろしはケガをすることもなく無事おわりましたとさ。おしまい。

我々消防職員が消防訓練等で保育園や小学校に出向いた際に、防災教育を行うことで子供達はもちろん、子供達を通じて保育士や教諭、保護者にも広く周知することが可能で

# 1秒でも早く

男鹿地区消防本部
眞壁英男

八・六分。これは覚知から救急車が現場へ到着するまでの平均時間です。年々救急車の到着時間が遅くなり、病院収容まで多くの時間を要していることは報道でも出ていますが、果たしてどれだけの人がその事を気に留めているでしょうか。もし、自分や家族、周りの人が救急車を必要とした時、通報してから八分以上も救急車を待たなければならないことになります。通報者のはやる気持ちと不安な心境を考えると非常に長い時間に感じると思います。しかし、これはいつ自分の身に起きてもおかしくないことなのです。

その原因の一つとして救急件数の増加があります。救急要請した時、最寄りの救急車が既に出場していた場合、どうしても現場到着が遅くなります。

また、少子高齢化が進んだことで、高齢者の搬送が年々増加してきています。年齢を重ねるにつれて病気やケガのリスクが高くなるのは当然のことです。更に地方では高齢者だけの世帯が多くなり、公共交通機関が衰退し、救急車に頼らざるを得ない状況がより一層強くなりつつあります。

しかしその一方で、搬送された方のうち約半数は入院を必要としない軽症となっています。これは必ずしも必要ではない方が救急車を使用しているため、適正利用ができていないということです。

そこで、一部の地域で行われている救急相談センターを取り入れること、それに加え民間救急の更なる普及を進めるべきだと私は考えます。救急相談センターとは、救急車が必要か迷った際に電話で相談でき、必要であればそのまま消防本部へ転送できるシステムです。受付は専門の看護師等が行うので、医療的に質の高い相談ができます。自分で病院へ行けない方には民間救急を紹介することで、病院までの交通手段も確保できます。

生活している中で、救急車を呼ぶか迷うことがあると思います。実際の通報でも迷っていたり、分からなかったりする理由で救急車を依頼されることもあります。消防本部等のホームページには、救急車適正利用マニュアルというものがあります。それでも本当に救急車が必要なのか、それを判断するのは難しいことだと思います。

そこで相談できるシステムがあればもう少し様子をみるか、病院へ行かなければならないのか、それとも緊急に救急車を呼ぶべきなのかを知ることができます。そのことにより、救急件数を抑えられるだけではなく、本当に必要な方にいち早く救急車を向かわせることができます。

当消防本部では、搬送先の半数以上が管外となっています。

ドクターヘリが運用されたことにより、早く医師の支配下に置くことができ、活動時間が短くなった事案もありました。

しかし、陸路で病院へ搬送することの方が多く、一件の救急事案でかなりの時間を要しているのが現状です。

救急相談センターが運用されれば、時に救急車ではなく民間救急やタクシーで病院へ行くことになる方もいるかと思います。しかし、救急車の適正利用が進むことで、重篤な傷病者が早く病院へ行き、早く医師の処置を受けることができるのです。

救急車は住民一人一人のための限りあるものです。

救急車が一秒でも早く傷病者を病院へ搬送するためには、住民一人一人の理解と協力が必要です。その理解と協力で助かる命があるかもしれないということを広く伝えていくことができれば救急車の適正利用につながると思います。

そして、我々が一秒でも早く適切に搬送することができれば公平で、更に質の高い住民サービスにつながるのではないのでしょうか。

■発表者の紹介（入賞者を除く）

秋田市消防本部
水沢茂樹

能代山本広域消防本部
菅原智樹

五城目町消防本部
島﨑拓也

にかほ市消防本部
佐藤陽介

湖東地区消防本部
伊藤誉紀

大館市消防本部
福館将太

北秋田市消防本部
畠山光大

横手市消防本部
髙橋洸佑

由利本荘市消防本部
岩坂諒

鹿角広域消防本部
佐藤雄太

平成二七年度

## 消防功労者消防庁長官表彰

表彰式は、三月九日(水)、ニッショーホール(東京都港区虎ノ門)において行われました。

◎功労章（二名）

小坂町消防団長　成田　俊昭
藤里町消防団長　小山　初美

◎永年勤続功労章（七六名）

消防吏員　二一名
消防団員　五五名

◎竿頭綬（一機関）

大仙市消防団

平成二七年四月二八日、大仙市協和稲沢地内の私有林で発生した林野火災の消火活動、火災鎮圧までの二日間で、消防団から車両一〇台、団員一二一名が出動対応にあたった。

平成二七年度

## 消防団等地域活動表彰（事業所）

表彰式は、三月六日(日)、ホテルルポール麹町(東京都千代田区平河町)において行われました。

◎受章者

株式会社　石川組

鹿角市十和田大湯

勤務している団員数は六名、自然災害時には重機オペレータを配置し、自社所有の重機、資器材を提供、毎年社内で水防訓練等災害に備えた訓練を実施するなど、消防団協力事業所として消防団活動に対し、積極的に協力している。

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店
綜合防災設備センター
株式会社 高義商会
（営業種目）
トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 タカギ
秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
（営業種目）
日本機械自動車ポンプ
トーハツポンプ
各種消防機械器具
消防設備保守点検
◇
キンパイホース
シバウラポンプ
各種消火器
ホームページ http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

# 津波防災地域づくりに関する法律に基づく津波浸水想定調査について

秋田県総合防災課

本県では、東日本大震災の被害等を踏まえ、県の防災対策の基本となる「地域防災計画」を全面的に修正するため、その基礎資料となる地震被害想定調査を実施し、平成２５年８月に公表しました。本調査の想定地震としては、過去に発生した地震はもとより、想定外をつくらないという考え方のもと連動地震を設定しております。

その後、平成２６年８月に、国から「津波防災地域づくりに関する法律」に基づいて、日本海における最大クラスの津波断層モデルが示されたことから、今年度、新たに津波浸水想定の設定作業を実施しております。この調査結果については、今年度末に、県ホームページに掲載するなどして公表するほか、広く周知に努めてまいります。

また、来年度には、改めて県の地域防災計画を修正し、市町村と協力しながら、総合的な津波防災対策を推進することにしております。

現在、調査結果の公表に向けて最終調整中ですが、その概要は次のとおりです。日本海側の津波は到達時間が短いことから、救援活動に加え、消防関係者の安全確保も重要となりますので、参考にしていただければ幸いです。

| 市町名 | 地点名 | 最大津波高（T.P.m） | 最大波到達時間（分） | 影響開始時間（分） |
|---|---|---|---|---|
| 八峰町 | 八森 | 14.1 | 26 | 11(11) |
| 能代市 | 落合 | 11.6 | 28 | 11(11) |
| 三種町 | 釜谷 | 12.4 | 28 | 11(11) |
| 男鹿市 | 五里合 | 10.8 | 26 | 9(9) |
| 男鹿市 | 加茂青砂 | 9.8 | 15 | 3(3) |
| 潟上市 | 天王 | 11.6 | 33 | 23(23) |
| 秋田市 | 新屋町 | 13.5 | 36 | 11(23) |
| 由利本荘市 | 松ヶ崎 | 11.3 | 33 | 10(20) |
| 由利本荘市 | 石脇 | 10.8 | 31 | 9(19) |
| にかほ市 | 小砂川 | 10.1 | 33 | 9(18) |

注１：地点は、日本海中部地震において主な被害のあった場所や河口等の地理的要因を踏まえて、秋田県地震被害想定調査時に定めた代表地点です。

注２：（T.P.m）は東京湾平均海面からの高さであり、最大波到達時間は、代表地点において最大津波高が生じるまでの時間です。

注３：影響開始時間は、地震直後の海面から±20cm変動が生じるまでの時間であり、括弧書きの値は、＋20cmの変動が生じる時間を示します。

# ◆消防団員研修◆

秋田県消防学校

| 第２期幹部教育指揮幹部科分団指揮課程 | | 第61期基礎教育 |
|---|---|---|
| 平成28年２月27日㈯～28日㈰ | 教育期間 | 平成28年３月５日㈯～６日㈰ |
| 43人（22消防団） | 入校者数 | 23人（8消防団） |
| 分団長、副分団長の階級にある者 | 対象者 | 入団して概ね３年未満の消防団員 |
| | 集合写真 | |

入校者名簿

| 消防団名 | 階級 | 氏名 |
|---|---|---|
| 鹿角市 | 副分団長 | 阿部繁孝 |
| 大館市 | 副分団長 | 神成忠行 |
| 北秋田市 | 副分団長 | 相馬克弥 |
| 上小阿仁村 | 副分団長 | 大沢義満 |
| 能代市 | 分団長 | 小林良蔵 |
| 能代市 | 分団長 | 畠山一昭 |
| 三種町 | 副分団長 | 田村浩人 |
| 三種町 | 副分団長 | 池内鉄巳 |
| 藤里町 | 班長 | 伊勢文夫 |
| 藤里町 | 班長 | 小森正之 |
| 男鹿市 | 副分団長 | 登藤輝美 |
| 潟上市 | 分団長 | 菅原和也 |
| 潟上市 | 副分団長 | 菅原　学 |
| 八郎潟町 | 副分団長 | 佐藤　毅 |
| 八郎潟町 | 部長 | 小玉昭幸 |
| 秋田市 | 分団長 | 佐藤秀雄 |
| 秋田市 | 副分団長 | 三浦浩一 |
| 秋田市 | 分団長 | 山内隆一 |
| 由利本荘市 | 分団長 | 佐藤一弘 |
| 由利本荘市 | 分団長 | 金森久雄 |
| 由利本荘市 | 分団長 | 小林富士雄 |
| 由利本荘市 | 分団長 | 伊藤孝夫 |
| 由利本荘市 | 分団長 | 遠藤　勝 |
| 由利本荘市 | 副分団長 | 柳橋重勝 |
| 由利本荘市 | 分団長 | 藤原　明 |
| にかほ市 | 副分団長 | 須田　敦 |
| にかほ市 | 副分団長 | 佐々木達行 |
| にかほ市 | 副分団長 | 佐々木良二 |
| 大仙市 | 副分団長 | 今　清和 |
| 横手市横手 | 分団長 | 高橋広三 |
| 横手市平鹿 | 分団長 | 髙橋和雄 |
| 横手市平鹿 | 副分団長 | 飯野正和 |
| 横手市平鹿 | 副分団長 | 柿﨑信人 |
| 横手市大森 | 副分団長 | 讃岐秀彦 |
| 横手市十文字 | 副分団長 | 加藤明彦 |
| 横手市山内 | 副分団長 | 高橋　清 |
| 横手市大雄 | 副分団長 | 狩野一男 |
| 湯沢市 | 副分団長 | 柴田長悦 |
| 湯沢市 | 副分団長 | 髙橋政介 |
| 湯沢市 | 分団長 | 菅原正則 |
| 湯沢市 | 副分団長 | 由利幸悦 |
| 湯沢市 | 副分団長 | 髙橋克己 |
| 東成瀬村 | 分団長 | 鈴木清一 |

| 消防団名 | 階級 | 氏名 |
|---|---|---|
| 鹿角市 | 団員 | 小舘侑行 |
| 鹿角市 | 団員 | 兎澤和幸 |
| 北秋田市 | 団員 | 戸澤公哉 |
| 北秋田市 | 団員 | 戸澤拓史 |
| 北秋田市 | 団員 | 成田康憲 |
| 男鹿市 | 団員 | 武田十志彌 |
| 男鹿市 | 団員 | 鎌田雅士 |
| 潟上市 | 団員 | 菅原英樹 |
| 潟上市 | 団員 | 田畑豪雅 |
| 八郎潟町 | 団員 | 土橋宣仁 |
| 八郎潟町 | 団員 | 戸島皓右 |
| 由利本荘市 | 団員 | 本間裕助 |
| 由利本荘市 | 団員 | 伊豆元貴 |
| 由利本荘市 | 団員 | 伊藤貴之 |
| 由利本荘市 | 団員 | 正木健太朗 |
| 由利本荘市 | 団員 | 遠藤吉保 |
| 由利本荘市 | 団員 | 佐藤　凌 |
| 仙北市 | 団員 | 田口暢成 |
| 仙北市 | 団員 | 藤原大樹 |
| 仙北市 | 団員 | 柴田翔平 |
| 仙北市 | 団員 | 戸澤　潤 |
| 仙北市 | 団員 | 佐藤信一 |
| 湯沢市 | 団員 | 阿部　豊 |

消防半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺田染工場

横手市清川町　☎32－0416

## 支部情報アラカルト

### 中堅幹部及び初任団員研修を実施

＝大館市消防本部＝

大館北秋田支部では、平成二八年二月一四日(日)に、大館市立中央公民館を会場に「中堅幹部及び初任団員研修」を開催しました。

当日は、中堅幹部団員五八名、初任団員五九名が参加し、全員で日本消防協会の藤中氏による「消防個人年金」の説明を受けた後、中堅幹部団員、初任団員に分かれそれぞれ教養及び実技研修を受講しました。

中堅幹部団員は、水害時の図上演習（ＤＩＧ）と近年、除雪作業中の事故が多発していることを踏まえ、雪下ろし作業における注意事項や命綱の作成方法について大館市の消防吏員から講習を受けました。

初任団員は、消防団の職務や安全管理といった基本的な教養と礼式の基本動作を確認した後、二重巻ホースの展張、結合離脱、巻取りまでの一連行為について、北秋田市の消防吏員から講習を受け、全員で実践しました。今までホースに触ったことが無い女性団員や入団したての新規団員には、支部役員も加わって直接指導するなど、これまでにない熱の入った講習が行われました。

（情報提供＝大館北秋田支部）

## 平成二八年度 秋田県山火事予防運動

この運動は、山火事が多発する春季において、県民一人ひとりに山火事予防思想の普及を図り、森林資源と自然環境の保全に努めることを目的に実施するものです。

■統一標語

誓います　森の安全　火の始末

■実施期間

平成二八年四月一日(金)から五月三一日(火)までの二ヶ月間

### 火災の発生状況（速報値）

（秋田県総合防災課調べ）

| | 平成28年 | | 平成27年 | | | 同期比較 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2月 | 累計 | 2月 | 累計 | 年計 | 2月 | 累計 |
| 建　物 | 23 | 41 | 17 | 39 | 211 | 6 | 2 |
| 林　野 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34 | 0 | 0 |
| 車　輌 | 0 | 1 | 5 | 9 | 45 | －5 | －8 |
| その他 | 1 | 2 | 0 | 1 | 83 | 1 | 1 |
| 合　計 | 24 | 44 | 22 | 49 | 373 | 2 | －5 |
| 死者数 | 3 | 6 | 3 | 10 | 40 | 0 | －4 |
| 負傷者数 | 4 | 11 | 10 | 23 | 86 | －6 | －12 |

モリタ消防ポンプ　シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管　消防被服一式
各種消火器　消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185)(52)6494
(52)6361

地域の防災、災害対策に貢献！

消防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社
秋田市山王六丁目１番24号　ＴＥＬ018（863）1551㈹
山王セントラルビル７Ｆ　ＦＡＸ018（824）3651